

平成 30 年度 第 3 回静岡地域医療構想調整会議 会議録

日 時	平成 30 年 12 月 26 日 (水) 午後 8 時 00 分から 8 時 30 分まで	
場 所	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 大ホール (静岡市駿河区馬淵 1 丁目 17-1)	
出席者 職・氏名	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>静岡市静岡医師会長 袴田 光治</p> <p>静岡市静岡歯科医師会長 片山 貴之</p> <p>静岡市清水歯科医師会長 本間 義章</p> <p>静岡市薬剤師会長 代理出席 副会長 河西 きよみ</p> <p>清水薬剤師会長 柴田 昭</p> <p>静岡県看護協会静岡支部長 櫻井 郁子</p> <p>静岡赤十字病院長 磯部 潔</p> <p>静岡済生会総合病院長 石山 純三</p> <p>静岡市立静岡病院長 宮下 正</p> <p>静岡県立総合病院長 田中 一成</p> <p>静岡市立清水病院長 藤井 浩治</p> <p>J A 静岡厚生連静岡厚生病院長 水野 伸一</p> <p>J A 静岡厚生連清水厚生病院長 中田 恒</p> <p>独立行政法人地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院長 相川 竜一</p> <p>静岡県老人保健施設協会副会長 萩原 秀雄</p> <p>静岡県精神科病院協会会長 溝口 明範</p> <p>静岡県老人福祉施設協議会副会長 前田 万正</p> <p>静岡市保健福祉長寿局保健衛生医療部長 鈴木 宏和</p> <p>静岡市保健所長 加治 正行</p> <p>静岡県中部保健所長 岩間 真人</p> <p>&lt;オブザーバー&gt;</p> <p>浜松医科大学特任教授 小林 利彦</p> <p>浜松医科大学特任准教授 竹内 浩視</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>静岡県健康福祉部医療健康局医療政策課班長 花嶋 慶</p> <p>静岡県健康福祉部医療健康局医療政策課主任 中山 祐輔</p> <p>静岡県健康福祉部医療健康局医療政策課主事 伊藤 花江</p> <p>静岡県健康福祉部医療健康局長寿政策課班長 鈴木 貢</p> <p>静岡県中部健康福祉センター副所長 田辺 光男</p> <p>〃 (中部保健所) 医療健康部長 青野 秀子</p> <p>〃 (〃) 地域医療課長 小泉 奈加之</p>	

議 題	1 療養病床転換意向調査結果概要について
報 告	1 訪問診療の提供状況について 2 地域医療介護総合確保基金の提案状況について

司会から、本日の会議の出席委員は名簿のとおりであり、20名の出席、3名（村上委員、日野委員、玉川委員）の委員が所用により欠席であることを報告。また、静岡市薬剤師会の秋山委員に代わり、河西副会長に代理出席していることを報告。

さらに、本日は、地域医療構想アドバイザーである浜松医科大学の小林特任教授及び竹内特任准教授にはオブザーバーとして出席していることを報告。

なお、今回は、議事録及び会議資料を含め原則として公開であることを説明。

これからの議事の進行を袴田委員にお願いする。

（袴田議長）

研修会に引続きになりますが、よろしく申し上げます。本日の会議は、前回からの引き続きになるが、療養病床の転換意向調査結果が議題となる。また、報告事項としては、訪問診療の提供状況と確保基金の提案状況の報告となる。静岡の全体のバランスを考えた話合いを行っていきたいと思う。それでは、会議を進める。

【議題1】「療養病床転換意向調査結果概要について」

事務局から説明をお願いします。

（事務局） （資料1を説明）

（袴田議長）

ありがとうございました。25:1から20:1への変更、また、介護療養病床から介護医療院への転換。介護医療院への転換については、西部方面が進んでいるが、中部は2医療機関しか決まっていない。介護医療院に関して、何か理由があるのか。小林先生、御意見を申し上げます。

（小林特任教授）

おそらく、先を見て行動する方がいるからではないかと思う。

（袴田議長）

将来的には、増加していく可能性はあるか。

（小林特任教授）

一時的に患者が、介護療養病床から医療療養病床に流れることは、悪いことではないと思う。その医療療養病床は当然ではあるが、多数の看護師が必要になる。つまり、医療密度の高い患者を看なくてはいけない。いわゆる急性期から医療療養病床に流れていく時に、急性期の方から看護師も医療療養病床に動いてくるのかは、よくわからない。いろいろ流動的なことがあり、患者が、最終的に医療療養病床から介護医療院に流れることもある。現実的には、経営的なことがあるので、医療や介護の報酬改定の動きを見ながら動いていくと思う。

(袴田議長)

それでは、次に報告事項に移ります。続きまして、

**【報告 1】 訪問診療の提供状況について**

事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料 2 を説明)

(袴田議長)

ありがとうございました。訪問診療については、静岡市医師会も色々と考えている。来年度は、医師会から依頼して病院の方々にお集りいただき、協議を考えている。静岡市医師会の現状として聞いておいていただきたいことがある。国は、在宅医療が大切で重要になるので、開業医は地域に出向いて往診してほしいと言っている。私たち医師会もそのように思い、施設整備をしている。しかし、実際聞いてみると、病院からの訪問診療の依頼はない。ほとんど、訪問診療は増加していないのが現状である。そこで、医師会から病院にアンケートを採ったところ、訪問診療対応が出来る診療所の 1 割程度である 4～5 か所の訪問診療専門の診療所に紹介が偏っている。実は、訪問診療対応が可能な診療所は他に多数あるが、病院から依頼が来ないと、訪問診療の意欲を無くしてしまい、対応しなくなってしまう。いざ、訪問診療対応が可能な診療所がより必要になった場合、対応出来るか心配している。今後、年明けに開催される、医師会と病院との協議の場において、病院に対して、訪問診療を行う医師の育成をお願いしますつもりである。訪問診療の件に関して、何か意見はあるか。

(小林特任教授)

(10 ページ下段資料) 2025 年の提供見込みでは、静岡圏域では在宅医療等が 8,082 人必要である。医療療養病棟から 987 人、一般病棟から 235 人が必要となる。介護老人保健施設は 3,014 名、訪問診療は 3,845 人必要となる。それに対して、静岡圏域では、介護老人保健施設は 3,014 人→3,119 人を新たに設けると言っている。他の圏域は、それほど介護老人保健施設を設けないと言っている圏域もあるが、介護老人保健施設を設け、こちらに入所者が流れる前提である。訪問診療は 3,845 人まで、増やすというのが静岡圏域の方針である。介護医療院についても、616 人まで増やす方針である。外来の 235 人であるが、この数が増えると他の負担が軽減される。結局、8,082 人を何処で見るかというのが、この表の見方である。(11 ページの上段) 2025 年の提供見込みの訪問診療 3,845 人に対して、現状が約 3,400 人程度であるので、3,845 人まで上げることを前提に、増加してきている。しかし、袴田委員が話されたように、開業医レベルでは、それほど増加を感じていない。つまり、一部の訪問診療専門の診療所が多数患者を診ているため、増えていると思われる。その状況が、良いか悪いかは、わからない。(10 ページ下段資料) この表の 2025 年の在宅医療等の必要量と提供見込みの数字が、今回の地域医療構想の基となり、市町が提供見込み量にどのように対応するか。その提供見込み量の数に、一番合わせやすいのが、介護医療院である。そのような理由で、医療療養に移った患者が、将来的に介護医療院に移っていけば、終末期における孤独死等が増加しなくなるのではないかと思われる。地域ごと違いがあるが、静岡圏域は、そのような表の見方をすればいいのかと思う。

(袴田議長)

ありがとうございました。現在、静岡圏域は救急医療が大変な状況で、病院の医師は頑張っている。その先生方が大変な原因のひとつは、介護施設からの情報が無い患者の対応であると同っている。訪問診療や施設の医師が、そのようなことを考えていくことが重要で、今後、新たなルール作りも必要であると、静岡市静岡医師会も思っている。また、協力をお願いしたい。

それでは、次の報告事項に移ります。続きまして、

**【報告2】「地域医療介護総合確保基金の提案状況について」**

事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料3を説明)

(袴田議長)

ありがとうございました。

(宮下委員)

公立病院からの基金事業の提案が、年度を追うごとに増えており、平成31年度は15件の提案があるが、どのような提案内容があったのか知ることは出来るのか。

(医療政策課：花嶋班長)

提案された内容については、国に県計画等の提出の時期に、採択させていただいた事業を県のホームページに公表をしている。そちらを参照していただければと思う。

(宮下委員)

採用された事業及び不採用の事業についての情報を、病院の経営担当者は、関心があり興味があると思うので、全事業の情報提供をしていただくとありがたいので、検討いただきたいと思う。

(医療政策課：花嶋班長)

検討させていただきます。

(袴田議長)

ありがとうございました。それでは、事業の情報提供を検討いただきたいと思う。よろしくをお願いします。

(竹内特任准教授)

先程の小林先生の研修会の中で出てきた、病床100床あたりの医師数の件であるが、前回も話をさせていただいたが、決して圏域ごとをみても医師不足であり、全県が全国平均であれば良いと言う問題でもない。また、そのあたりを2月の研修会等で話をさせていただきたいと思っている。

(袴田議長)

この会議を上手く利用すれば、より重要な会議になると思う。お互いに静岡圏域の病院に何が足りないのか、全病院が全科が揃うような潤沢な状況ではなくなってくると思う。そこは、病院間で話し合い、静岡の全体のバランスを取り良い形を目指して、一緒に頑張っていくしかないのではと思う。今後も、公正な立場で議事を進行させていきたいと思っている。それでは、次回開催は、来年2月を予定しております。来年も、よろしくをお願いします。本日は、お疲れ様でした。

(司会)

袴田委員、どうも、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、静岡地域医療構想調整会議を閉会いたします。本日は、年末のお忙しい中、御参加いただき、誠にありがとうございました。皆様、良いお年をお迎えください。